

仏教以前のインド思想

2017 年本試

問 4 古代インドで展開された思想についての記述として最も適当なものを，次の

①～④のうちから一つ選べ。

14

- ① ウパニシャッド哲学は，真の自己とされるアートマンは観念的なものにならざるべきないため，アートマンを完全に捨てて，絶対的なブラフマンと一体化するべきであると説いた。
- ② バラモン教は，聖典ヴェーダを絶対的なものとして重視していたため，ヴェーダの権威を否定して自由な思考を展開する立場を六師外道と呼んで批判した。
- ③ ウパニシャッド哲学では，人間を含むあらゆる生きものが行った行為，すなわち業(カルマ)の善悪に応じて，死後，種々の境遇に生まれ変わると考えられた。
- ④ バラモン教では，唯一なる神の^{まつ}祀り方が人々の幸福を左右するという考えに基づいて，^{まいし}祭祀を^{つかさど}司るバラモンが政治的指導者として社会階層の最上位に位置づけられた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	14	③	3

2017年追試

問2 禁欲について説いた教えの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

12

- ① 神への絶対服従を唱えるイスラーム教では、自己の欲望を棄^すてるため、ラマダーン月の間、日の出から日没まで断食を行うことが、任意の善行として推奨されてきた。
- ② パウロは、食生活の規定などを含む律法本来の役割を重視し、律法に則した禁欲的な実践によってのみ、人は罪を自覚することが可能となり、義とされると説いた。
- ③ ヴァルダマーナが創始したジャイナ教では、古代インド社会に根ざしたバラモン教の伝統が批判され、解脱を得るために、断食をはじめとする厳しい苦行と不殺生の戒めが説かれた。
- ④ エピクロスは、「水と一切れのパンがあれば足りる」と語り、肉体と精神のあらゆる快楽を最小限に抑えることによって、自足した賢者の理想を目指す生活を唱えた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第2問	問2	12	③	3

2011 年本試

問 7 先哲たちの死に対する洞察に関連して、次のア～ウはそれぞれ誰の思想についての記述か。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

11

ア 人の生は仮の宿のようなものであり、虚無から生まれ虚無へと帰るため、生の長短など、あらゆる相対的価値に囚^{とら}われてはいけない。

イ 人は業によって輪廻を繰り返すのであるが、不殺生などの戒めを守って苦行を重ね、悪業をなさないようにすることで輪廻から解放される。

ウ 身体が減れば魂も飛散するため、生きている間は死に出会わず、死が来た時には私たちはもういないのだから、死を恐れる必要はない。

- | | | | | | | |
|---|---|----|---|----------|---|---------|
| ① | ア | 墨子 | イ | ナーガールジュナ | ウ | エピクロス |
| ② | ア | 莊子 | イ | ヴァルダマーナ | ウ | エピクロス |
| ③ | ア | 孟子 | イ | ナーガールジュナ | ウ | エンペドクレス |
| ④ | ア | 孟子 | イ | ヴァルダマーナ | ウ | アリストテレス |
| ⑤ | ア | 莊子 | イ | ナーガールジュナ | ウ | アリストテレス |
| ⑥ | ア | 墨子 | イ | ヴァルダマーナ | ウ | エンペドクレス |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第2問	問7	11	②	3

2011 年追試

問 1 文章中の に入る語句として正しいものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つ選べ。

人類の歴史を振り返ると，古代の中国やローマのように占いが政治を左右した例も稀^{まれ}ではない。多くの文化では，占いはそれぞれの世界観に基づいた真剣な知の営みとみなされていたのである。例えば の聖典ヴェーダには，夢占いや動物占いなどの記述がある。

- | | | | |
|--------------------------------|---|---------|---------|
| <input type="text" value="4"/> | { | ① ジャイナ教 | ② バラモン教 |
| | | ③ マニ教 | ④ ユダヤ教 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	4	②	2

2010 年追試

問 7 バラモン教についての記述として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

11

- ① 輪廻の循環から解放されて生死を超えた絶対の境地に至るあり方が理想であり，その手段として苦行が重要であるとされた。
- ② 宇宙の根源にある根本原理と自己の本質が一体であるという真理を悟ることによって，解脱できるとされた。
- ③ 実体のようなものは一つとして存在せず，この世のすべてのものは原因や条件が合わさって成り立っているとされた。
- ④ 命あるものは業を原因として生まれ変わり，生活における行為が積み重なって次の生活の形や運命が決定づけられるとされた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 7	11	③	3

2008 年本試

問 7 インドの宗教的実践についての記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

11

- ① ウパニシャッドでは，苦行や禁欲の実践を通じて，苦悩を生み出す原因である三毒を抑制することが勧められている。
- ② 初期仏教とジャイナ教では，不殺生をはじめとする戒律を守ることによって，欲望に囚^{とら}われない境地を目指した。
- ③ ヨーガとは，初期仏教に起源をもつ，精神を統一するための修行法であり，禅宗の坐禅の原型ともなった。
- ④ 大乘仏教では，正しい見解や思惟^{しゆい}などの六つの徳目を守ることにより，生きとし生けるものの救済を目指した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 7	11	②	3

2006 年本試

問 2 古代インドのウパニシャッドで追求された、輪廻を脱した境地の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 6

- ① アートマンの中に変化しない要素はないことを認識し、執着をすてて永遠性を獲得した境地。
- ② アートマンと宇宙的原理が同一であることを直観し、それによって永遠性を獲得した境地。
- ③ アートマンが存在のよりどころとしている身体を不滅なものにすることによって、永遠性を獲得した境地。
- ④ アートマンを創造した神の行為を認識し、神の慈愛による救済を通して、永遠性を獲得した境地。

問 3 ゴータマ=ブッダとほぼ同時代に生きたジャイナ教の開祖ヴァルダマーナ(マハーヴィーラ)の教説として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

- ① 人間の思惟しゆいの形式は、世界の一部しか理解できない限定的なものであり、真理に到達するためには人間の思惟を否定しなければならない、と説いた。
- ② 運命によって人間の幸不幸は決まっており、人智の及ぶところではないので、いかに努力しても幸福になれるとは限らない、と説いた。
- ③ 人間の行為の善悪の究極的な基準は存在せず、悪行を行う人を非難する根拠もなく、善行も賞賛の対象にはならない、と説いた。
- ④ 解脱を目指して徹底した苦行主義に立つとともに、生き物に対する慈悲の行為として不殺生を実践しなければならない、と説いた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 2	6	②	3
第 2 問	問 3	7	④	3

2003 年追試

問 1 文章中の に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ
選べ。

古代インドでは、仏教が誕生する以前から、人間の在り方をめぐって深い思索が
展開されていた。『ウパニシャッド』の哲人たちは、内なる真実の自己に目覚め、こ
れが宇宙の根本原理と同一であるという の境地に達することを理想とした。

- ① 身心脱落
- ② 梵我一如
- ③ 唯我独尊
- ④ 心齋坐忘

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 1	1	②	2

2000 年 追試

問 1 文中の に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

古代インドでは、をはじめとする新しい思想を実践する出家修行者(沙門)たちが現れた。仏典において「六師外道」と呼ばれている人々である。

- ① バラモン教 ② ジャイナ教
③ ヒンドゥー教 ④ ゴロアスター教

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 1	1	②	2